

はじめに

最近、「大学の自己点検・評価」という問題が取りあげられ、学部としても、自己点検・評価委員会などが設けられていろいろと検討が加えられている。

その一つとして、大学の授業改善に関する研究も大きな話題になってきている。これまでの大学の教員は、学生に対して講義等をする場合、学生にわかるように授業改善をしようといった配慮をするといったことは必要ではない、学生側が積極的に参加すべきものであるとした意見が多いようであるが、情報化社会の中で、教育方法・技術や施設・設備が更新され、教育内容も多様化し、学生数が増加していく現状では、大学の講義についても、自己点検・評価し、授業改善を推進することは意義のあることであると思うものである。

教職員免許法等の一部が改正され、教職に関する専門教育科目の一つとして、新しく「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）に関する科目」2単位が必修になり、その授業を担当してきた者として、実験的に自分の授業をビデオカメラで収録し、自己点検することを試行することにした。

(1) 当該科目について

1. 実施場所：千葉大学教育学部・視聴覚教室
2. 科目名：教育方法・技術
3. 当該科目の担当歴： 3年
4. 形態：講義
5. 対象：教育学部・2年次学生
6. 種別：必修科目
7. 受講者数：150名
8. 当該科目の目的：授業や各種教育活動など実際の教育実践に、直接的にまた具体的に役立つ教育方法・技術について指導する。
9. 当該科目のシラバス：教育方法・技術の基本原則、構成する諸要素（教育内容、学習環境、学習道具・機器、学習活動の形態・組織、教授メディア、等）

(2) 本時の授業について

1. 目標：「教育方法・技術」の授業としては最終の講義であり、マルチメディアについての解説、教授メディアを選択する視点についての解説と本講義のまとめを行う。
2. 授業実施日：平成6年1月24日（月）4時限目
3. 映像記録方法について：8ミリビデオカメラ 2台。1台は視聴覚教室の後部に固定（三脚にて）して取り付け、主として授業者（自分）と板書代用として使用するOHP用スクリーンを収録するために、もう1台は授業者の頭部にカメラヘッドを取り付け、ビデオウォークマンと接続し、主として受講者である学生全体の様子を収録するために設定した。写真1は2台のカメラによる映像を合成したものである。

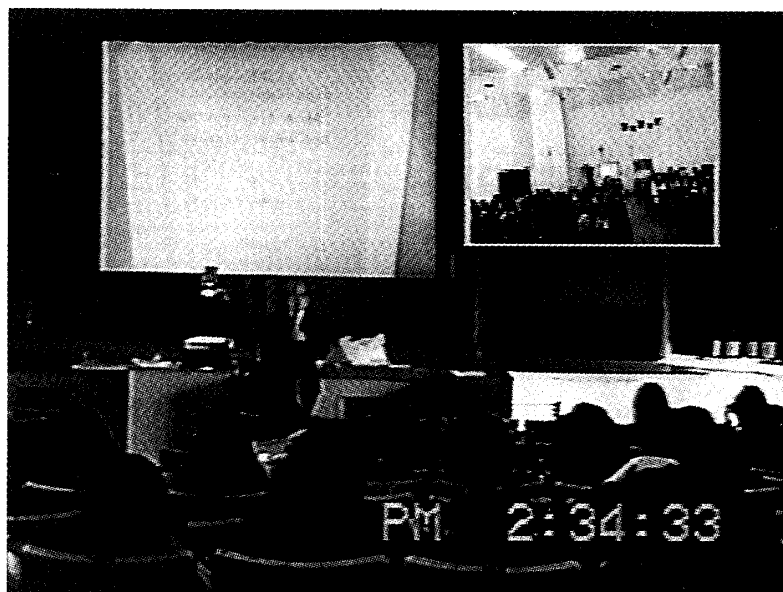


写真1 合成画面を用いた授業の映像記録の例

4. 授業実施について

1) 特に留意したり、工夫した点。

- ① 当初、本科目の授業は普通の講義室を使用することになっていたが、本受講生はクラス指定のクラスで、前時間の授業と同じ講義室で行うので、全学生は、教室移動がなく、学生にとってはそのまま同じ席で待機していたが、その状態で授業を行うと、学生に怠惰感や、疲労感が多くみられたので、気分一新という意味で、講義室を移動することを試みた。狭い講義室から、広い視聴覚教室に移動した。
- ② 授業者自身が板書が拙劣なため、板書代用として、また、OHPの特性をいかしてOHPを常用している。
- ③ テキストを使用していないので、本時では印刷物（プリント）一枚を配付した。
- ④ 受講学生が150名と多数であり、本科目の授業では、VTRなど、視聴覚教育機器を利用することが多いので、視聴覚教室で行っており、当然ながらマイクを利用している。なお、本時ではVTRは使用しなかった。

2) うまくいった点。

- ① 学生を同じ講義室でなく、移動させたことは、気分転換という意味で良かったと思った。
- ② 講義でTP教材を積極的に利用しているが、当初の準備は大変であるが、授業計画どおり進行できるのが良かった。
- ③ 本時についていえば、「教授メディアを選択する視点」についての印刷物（プリント）一枚を配付したが、ノート作業を補助するために良かったと思った。
- ④ 本時では、授業者の授業研究をするためと学生に了解をとり、映像記録を収録した。教室後部からの固定ビデオカメラからの映像収録だけでなく、授業者の頭部に取り付けたカメラヘッドからの映像収録をしたが、学生にとって、自分たちの様子が収録さ

れるとあって、いつもより、緊張した様子が見られた。

- ⑤ 以前、普通の講義室での授業のビデオ映像収録を何度も試みたが、設備の関係で、教室後部のビデオカメラ内蔵のマイクで授業者の声を収録したので、雑音も挿入され聞きづらかった。本視聴覚教室では、音響装置の設備が良いので、マイクミキサーの外部出力とビデオカメラの音声入力を接続することで、授業者の声の収録の明瞭度が良くなった。

3) うまくいかなかった点。

- ① 場所である視聴覚教室は、各種聴覚教育機器が整備され、授業展開を効果的に行うには適切な場所ではあったが、480名定員の小講堂的な教室であるので、150名の学生を収容して行うには、広過ぎた。また、学生には座席を固定せず、自由に行っているため、着座席が散逸し、授業者にとって、集中しにくかった。
- ② 授業者の頭部に取り付けられたカメラヘッドからの映像がビデオウォークマンのバッテリーの消耗で、授業中にとぎれ、バッテリーの交換に時間がかかり、授業が少し中断したことを反省した。次回以降は直接交流電源を使用しようと思っている。

5. 映像記録を視聴しての留意点

1) 視聴してはじめて気がついた点。

- ① 授業者（自分）の講義内容で、指導中、完全に間違っただけの言葉を発言した個所が、2つもあったことである。このことには大きなショックを受けた。
- 一つは、参考図書を紹介するのに、出版会社名を「(株)ぎょうせい」と言うべきところ、間違っただけ「(株)第一法規」と紹介したこと、二つめは、「フォーメーション」と言うべきところ、間違っただけ「インフォメーション」と発言していたことである。2個所とも、授業中、全く気がつかなかった。
- ② 授業者の口調が、予想以上に早口であったことである。
- ③ 教室後部からの映像が、固定されており、授業者のみの様子が映し出されていて、学生たちの様子が一部の学生の後ろ姿しか観察できなかったのは、やはり、物足りなかった。
- ④ 授業者は授業の準備のため授業開始時間より早めに入室したが、授業者自身が、OHPや、スクリーンや、マイク等の拡声器を準備したり、ビデオ映像収録のための機器設備の準備にかなりの時間を費やしていた。また、後片付けにも時間を費やしていた。

2) 授業実施中に気がついていたことで、視聴によって再確認したこと。

- ① 授業者の頭部に取り付けられたカメラヘッドからの映像は、かなり、動きが早いだろうと予想したが、予想以上に動いていて見づらかった。また、広角レンズなので、学生全体の大まかな様子しか見られなかった。しかし、授業者自身の頭の動きが観察できたのは良かったと思った。
- ② 授業中、遅れて入室する学生が数人いたことに気づいていたが、後で視聴してみると、かなり遅れて入室する学生がいて驚いた。(いつも、遅刻者はチェックしていない。)

6. 工夫・改善で用いる原理は何か。

- ① 学習者側の立場にたって、学生が理解し易いような指導方法を計画をたてるべきだと思う。テキスト中心で、読書会的な方法だけではなく、学生に学習意欲を起こさせるような工夫・改善を大学の教師は積極的に挑戦すべきだと思うものである。
- ② 効果的な授業を展開するために、できるだけ、VTRなど、視聴覚教育機器等を活用することを工夫すべきと思うものである。

7. 今回の授業をよりよくするために、どのような方法が考えられるか。

- ① できるだけ、授業の様子映像記録を収録し、ビデオのカガミの利用を試みるべきである。
- ② 講義内容に関連する最新情報を取り入れるよう努力すべきである。
- ③ 学習者に授業者への評価をさせると良かったのではないかと思った。

(3) ま と め

1. 大学授業における自己点検・評価は、大学を活性化するために必要なことである。
2. 授業者の独断と偏見で押しつけるような授業でなく、学習者側の立場にたって、学生が理解し易いような指導方法を工夫し、改善していくべきである。また、そのための施設・設備を充実すべきである。
3. 授業者自身が、自信過剰になるのではなく、率直に、自己点検・評価をしてみると、当初は恥ずかしさとか、照れくささがあるが、自分の欠点を発見することができるし、ウッカリミスを発見することができる。
4. ビデオで映像記録を収録する場合、授業者の様子だけでなく、学習者側の様子も収録できるように、2台以上のビデオカメラを準備すべきだし、カメラも固定でなく、カメラマンを用意し、適当にズーミングや移動させ、効果的な映像の収録をすべきである。バッテリー使用時は、予備補充に配慮すべきである。
5. 講義と講義の間の休憩時間には、学生を動かして、気分転換をはかったほうが学習態度が良くなるようである。
6. 今回、偶然ながら、2つの誤発言を発見したが、そのほか、本科目「教育方法・技術」の授業を第1回から収録してきて、工夫・改善してきたことは、①講義口調が早すぎることに気がつき、少しテンポを遅くしてきた。②授業開始時、直ちに講義内容に入るのではなく、5～10分くらい、テレビや新聞等で、この一週間にあった教育的な話題等を導入するのが良いと気づいて、できるだけ実行してきた。③板書代用として毎回OHPを利用してきたが、TP作成には、文字の大きさ、字数等、後部の受講者にも良く見えるよう配慮して作成した。
7. 場所として視聴覚教室を利用したので、VTRの利用も容易であり、ビデオ映像も、37インチテレビ2台、50インチプロジェクターテレビ2台で視聴することができるので、ビデオ教材の活用も大いに試み、好評であった。さらに、大型映像の視聴ができるような設備を要求したい。
8. 授業の工夫・改善ではないが、毎回の授業を収録することで、前回の授業がどこまで進

んだかを確認でき、次回の授業の準備に参考になったことはとても助かった。

9. 収録した授業の映像は、授業分析用だけでなく、受講者である学生にも視聴させて、学習態度を自己・点検してもらうというのも良策ではないかと思った。
10. 今回は、授業者による自己点検・評価であったが、次回は学習者に評価してもらうのも良いのではと思っている。ただ、妥当な評価が得られるか不安な気もする。